



産科だより

康心会汐見台病院

令和元年

急に寒くなり始めましたね。体調不良者があ

ちらこちらで出始めています。台風での被災地でもノロウイルスが出ており、被災地の感染対策も急務です。毎年話題になるインフルエンザもすでに東京都では流行期に入っています。(流行期とは、1医療機関あたりの新規患者数が1.0を超えることをいいます。)横浜市全体ではまだ流行期の発表はありませんが、9月中旬すでに学級閉鎖の報告があります。当院職員も10月末に予防接種を実施しました。米疾病対策センター(CDC)の発表では、南半球での状況を鑑みると北半球での流行が早まると考えられると伝えていて、ただちに予防接種を受けるべきであると警告を発信しています。今シーズンのワクチンは今年のインフルエンザ株に合わせて、昨年ものから変更されており、これまでの株との適合性も高いとみられています。CDCはインフルエンザの流行時期は予測不可能として、流行が始まる10月がワクチン接種に最も適した時期と伝えていきます。特に5歳未満の幼児、65歳以上の高齢者、妊娠中の女性、糖尿病、心疾患、喘息などの慢性疾患がある人は合併症のリスクが高いため、とくに早めの予防対策をおすすめします。

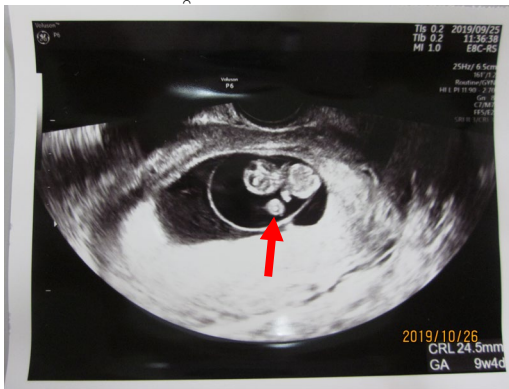
◆新しいエコーが導入されました。

外来で使用するエコー(超音波)検査の機械が新しいものになり、より鮮明に、より細かく見られるようになりました。その新しい機械で撮ったものがこの2枚の写真。

赤ちゃんの近くに小さい円形のがみえます。(赤い矢印)これは卵黄嚢といえます。これは妊娠初期の赤ちゃんが持つていて、栄養が詰まったお弁当のようなものです。鶏の卵でいう黄身の部分。この写真の子は9週4日。卵黄嚢は早ければ妊娠5週くらいにみえる子もいて、真ん中が黒くて、輪っかのように見えているかと思えます。大きくなってくると、この卵黄嚢はなくなっていくます。なぜかという、胎盤ができ始め、栄養をへその緒を通じてもらえるようになるからです。胎盤は妊娠してすぐできらるわけではなく、妊娠15週頃に完成します。それまでは卵黄嚢というお弁当から栄養補給して大きくなっていくわけです。

2枚目は12週

週の赤ちゃんを横から写した姿。右側が頭になります。この頃からしっかり人間



◆今月の赤ちゃん

令和元年10月23日 18時24分産まれた元(げん)くんです。前日の早朝にママが入院し、長時間陣痛に耐え、促進剤を使用し、入院してから36時間ほどでようやく会えました。分娩室に入ってから17分と早かったようです。元くんという名前は「元氣」

「令和元年」「元素のよう」に重要な存在になって欲しい」という様々な由来が込められているようです。また、名字の画数から考えると、残り4画しか使えなかったそうです。そこで、名前の響きも良いため夫婦で考えて元くんになったそうです。由来通り、元氣いっぱいになりますように。



らしい形になってきます。胎動としてはまだわかりませんが、エコーで身体を動かしている姿が見られる頃で、髪の毛が生え始めたり、まぶたがきたり、耳の形が整ってきたりと、身体の部位が作られる時期でもあります。これから健診でエコーを受けられる方は赤ちゃんがどんな動きをして、前回の健診からどこまで身体ができて、成長したのか見てあげてください。

